

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 15	43	百日咳	↑ 2	0
RSウイルス感染症	→ 0	0	ヘルパンギーナ	↓ 164	166
咽頭結膜熱	↓ 26	28	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓ 13	16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑ 114	105	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 432	598	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 12	7
水痘	↑ 62	50	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 103	124	無菌性髄膜炎	↓ 0	1
伝染性紅斑(りんご病)	↑ 2	1	マイコプラズマ肺炎	→ 0	0
突発性発しん	↓ 35	37	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↑ 6	5

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎：山鹿、菊池、有明、宇城
 手足口病：八代、水俣、宇城、人吉
 ヘルパンギーナ：菊池、宇城
 咽頭結膜熱：山鹿

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	
熊本市保健所	2		12	44	77	11	18		12		37	3		11						5
山鹿保健所			2	1	39	5			2				*	*						
菊池保健所	5		8	19	60	6	1		10	2	51	2								
阿蘇保健所					2								*	*						
御船保健所					10	1	4				2	1	*	*						
八代保健所				11	47	5	21		3		10									
水俣保健所				2	8		8		1		1		*	*						1
人吉保健所	7			9	34	8	11		2		2		*	*						
有明保健所			2	3	77	10	24		1		14	5								
宇城保健所	1		1	17	51	2	13	2	1		36		*	*						
天草保健所			1	8	27	14	3		3		11	2		1						
計	15		26	114	432	62	103	2	35	2	164	13	0	12	0	0	0	0	0	6

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	15					1	2		4	1	1	1	2	2								
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	0																					
咽頭結膜熱	26		3	10	6	3	1			2					1							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	114		1	5	7	7	11	13	27	12	8	10	7	1	5							
感染性胃腸炎	432	7	39	66	40	52	44	37	23	9	27	15	47	4	22							
水痘	62		5	9	16	12	5	9	1		1	2	2									
手足口病	103	1	8	33	24	20	6	7	1	1	1			1								
伝染性紅斑	2	1	1																			
突発性発しん	35	2	13	19	1																	
百日咳	2																					
ヘルパンギーナ	164		22	52	41	16	18	10	3	2			2									
流行性耳下腺炎	13					1		1	5	1	2		3									
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	12													1	2	1	2	1	2	3		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	0																					
クラミジア肺炎	0																					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	1	5																			

ダニ媒介性感染症に注意しましょう

今週は、今年初の日本紅斑熱の報告がありました。日本紅斑熱は、重症熱性血小板減少症候群(SFTS) やつが虫病と同じダニ媒介性感染症です。この時期は、ダニの活動が活発になっています。ダニ媒介性感染症を予防するためには、ダニに咬まれないような対策が必要です。山や森林などダニが多く生息する場所に出かける際や屋外で作業される場合は、以下の予防策をしっかり行いましょう。



ダニ媒介性疾患の予防対策

- 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。
- 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
 ・特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部(髪の毛の中)がポイントです。
 ・ダニは、人に取り付くと、吸着する場所を探して体表を動きまわります。ダニが吸着する前に、活動後すぐにシャワーを浴びることも有効です。
- 吸血中のマダニに気がついた際は、自分で無理に引き抜こうとせず、速やかに病院で処置すること。
 ・無理に引き抜くとダニの一部が皮膚に残って化膿したり、マダニの体液が逆流することがあります。
- マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、病院へ受診すること。
 ・医療機関にマダニに咬まれた可能性があることを伝えてください。
 ・すべてのマダニがウイルスなどの病原体をもっているわけではありませんので、咬まれた方が全て発症するわけではありません。



KKT 医療ナビ! Dr. Televitan

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課